

高松市立弦打小学校 体力向上プラン

【学校教育目標】

心豊かで たくましく よく学ぶ 子どもの育成
めざす弦打っ子 ～友だちといっしょに 元気に 運動に親しむ たくましい子～

【本校の課題】

- 新体力テストの結果において、男女ともに全国・県平均を下回る種目が多い。特に、男子の結果が全種目にわたり、平均を下回っている。
- 昨年度から始めた、投運動に焦点化した委員会での取組により投げる機会を保障する場を設けたが、さらなる継続が必要である。
- 教員の体育研修機会も少なく、教員の中で体力を向上させなければいけないという意識が低い。

【現状】

休み時間に運動場に出て遊ぶ子どもが固定化されており、運動を楽しむ子どもとそうでない子どもの二極化が見られる。運動場で遊ぶ子どもは鬼ごっこやインサ、バスケットボールが多く、体力向上につながっているかどうかは分からない。

体力向上、運動に親しむ資質・能力の育成に直接関連する体育授業については、教師間・クラス間で指導内容の差が大きく、体育授業への関心や体力向上の必要感が高いとはいえない。

【取組】

安全運動委員会によるイベントの開催
子どもたちに問題提起をし、安全運動委員会でどんな活動をすれば、体力が向上するかを考えさせ、昼休みや業間にできるイベントを実施する。

環境整備
昼休みの運動場や体育館の使い方のきまりを設定し、ボール遊びや鬼ごっこで安全に遊べるようにする。コートを常設し、いつでも気軽にドッジボールなどができる環境を作る。

体づくり部会
現職教育を3部会編成にし、体づくり部会を設置し、子どもの体力向上や健康教育の在り方等について、検討する。検討したことは、共通理解・共通行動できるよう子どもの具体的な姿で示すようにする。

体育授業の充実
現職教育等で様々な領域の実技講習会を実施し、体育授業の充実を図るとともに、教師の体育授業の指導力の向上をめざす。

【目標】

- 業間や昼休みに、外遊びや運動遊びを楽しむ子どもをクラスの80%程度にする。
- 投能力だけでなく、様々な運動遊びの習慣化を図り、新体力テストの学校平均を向上させる。
- 豊富な運動遊びが将来の健康な生活につながることを考え、運動の重要性を共通理解した上で、教職員全員でたくましい子どもを育成する。